



いんげん

一

上

かざぐるま

光村図書

い
い
てんき















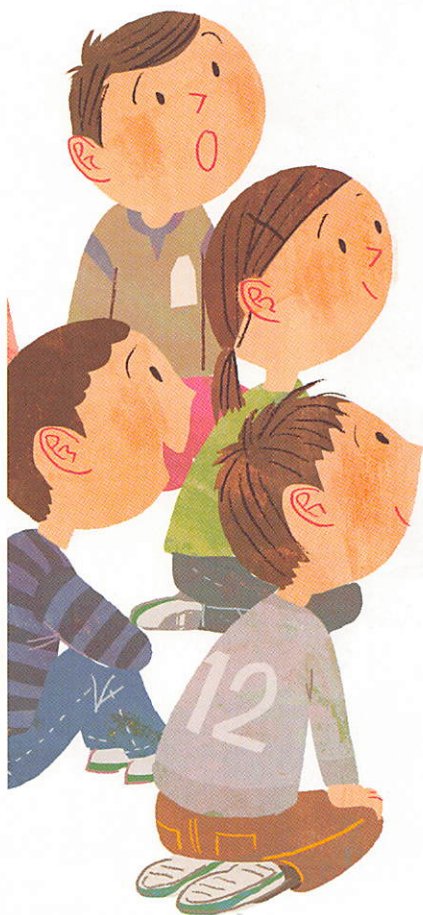


いい てんき
さあ いこう
ひろい せかいへ
とびだそう
わくわくするね
たのしいね



さあ
はじめよう



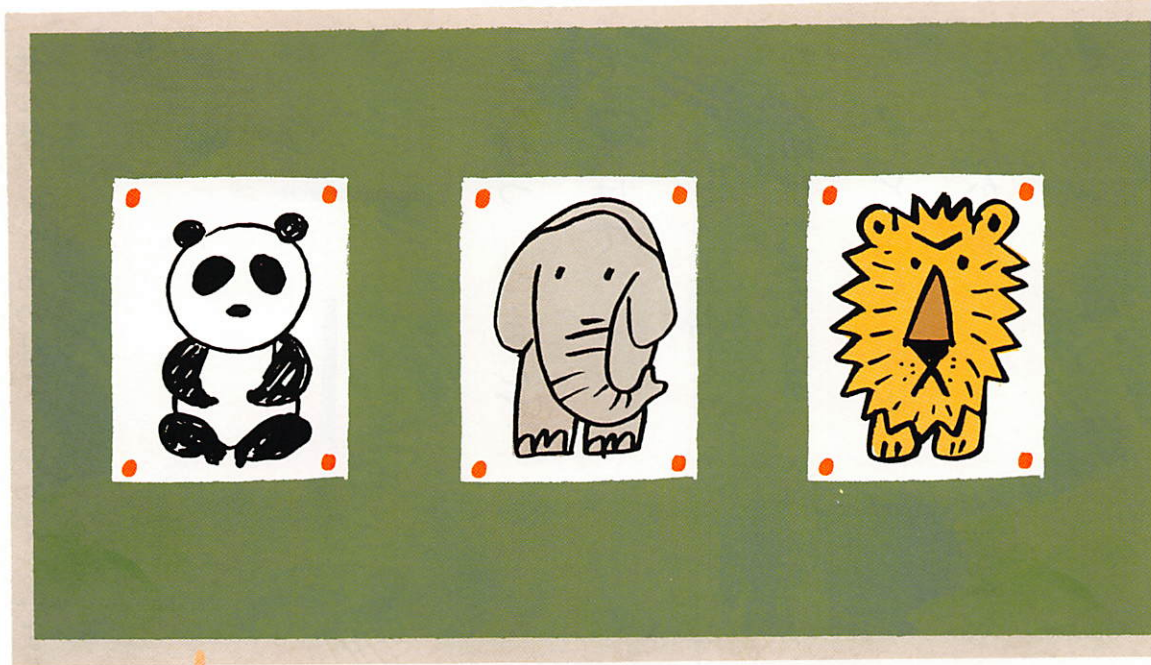




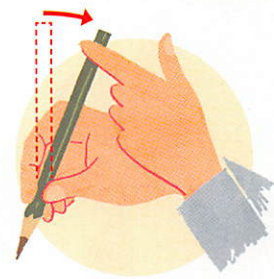
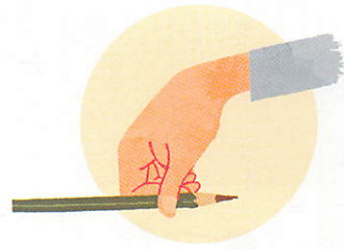


すきな
どうぶつ





せんせいに あわせて いって みましょう。



えんぴつ つまんで

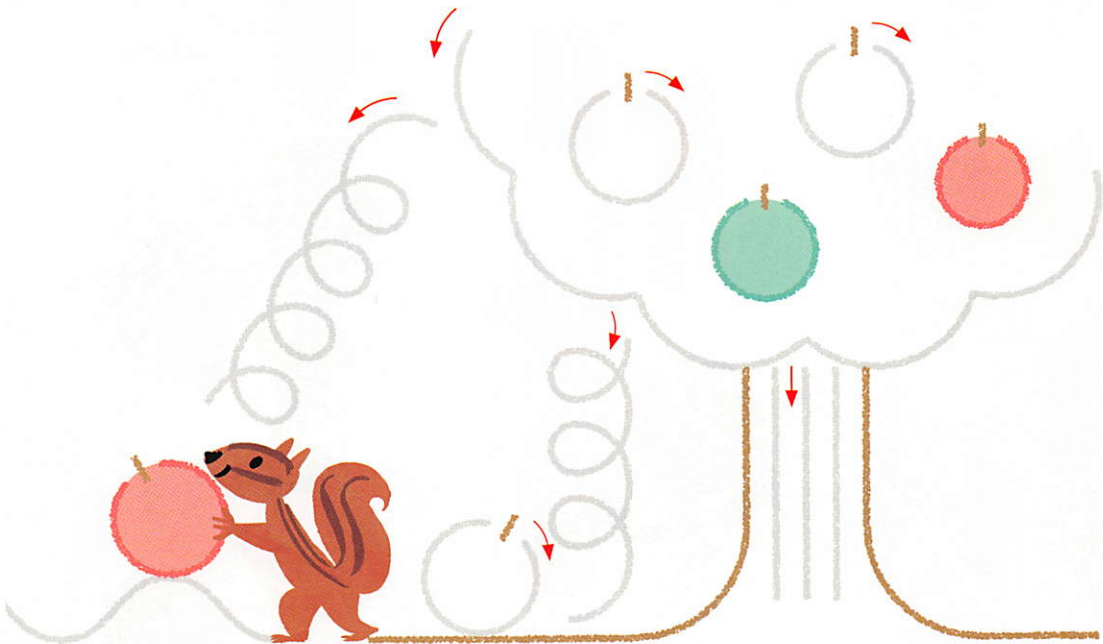
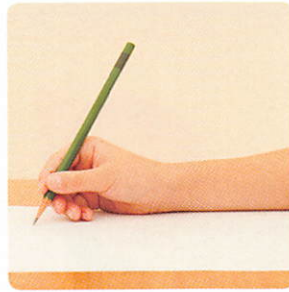
もちあげて

すうっと たおして

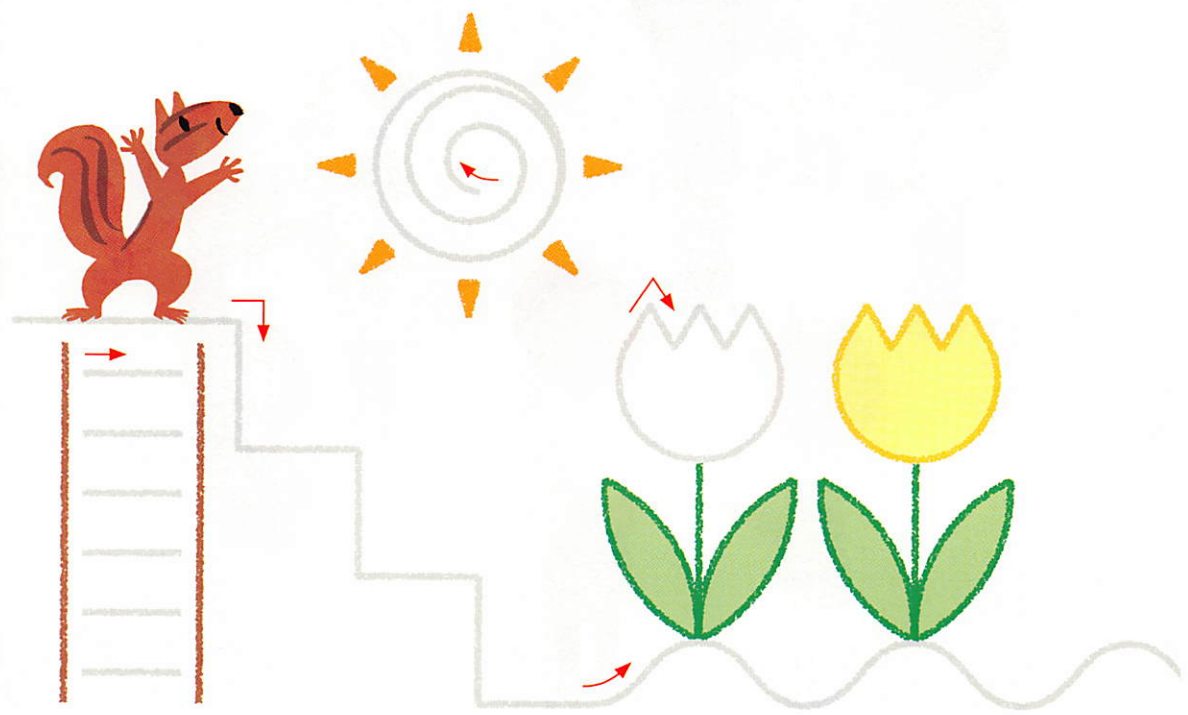
なかゆび まくら

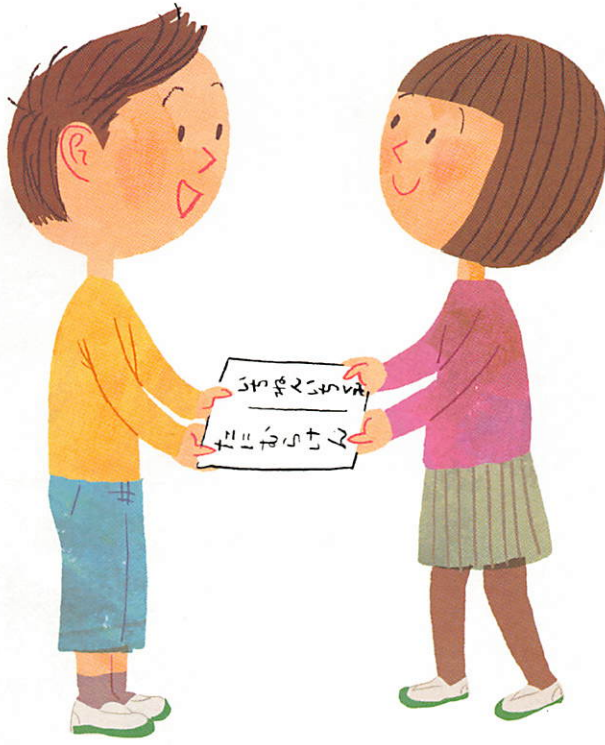
きちんと じょうずに

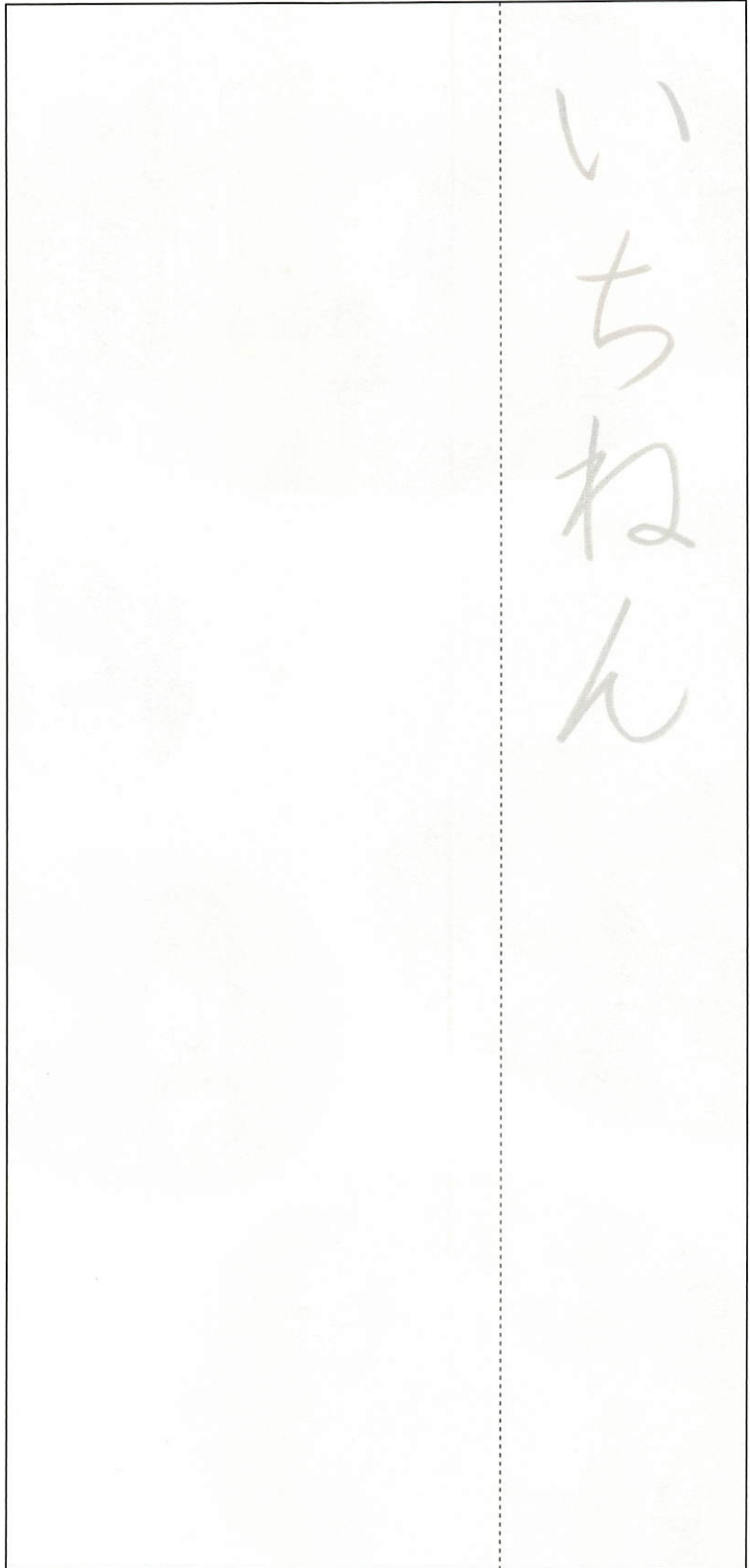
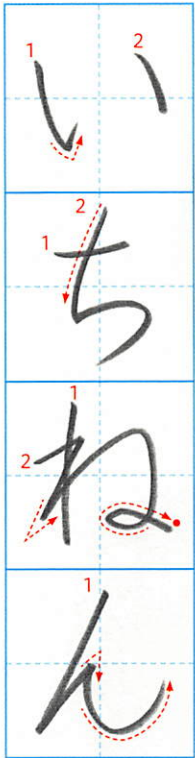
もてたかな



あしは ペったん
 せなかは ぴん
 おなかと せなかに
 ぐう ひとつ
 かみを おさえて
 さあ かこう





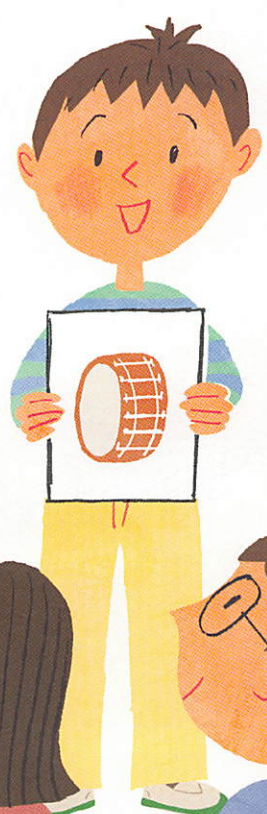


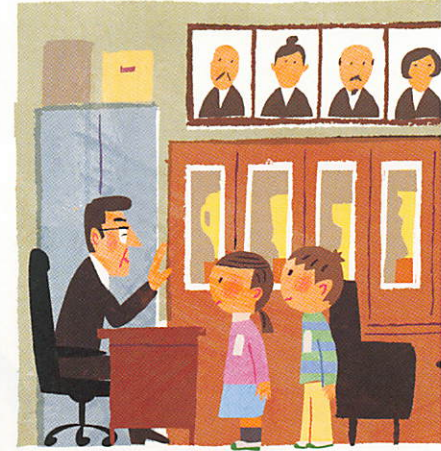
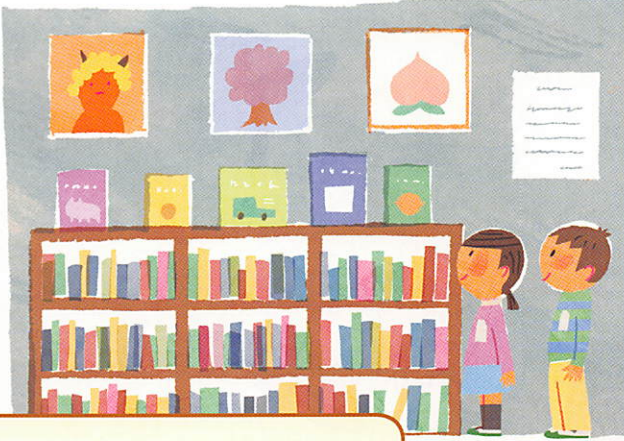






おんがくしつに、
おおきなたいこが
ありました。
たたいてみたいです。





としよかんに、
ほんが たくさん
ありました。
びっくりしました。



あかるい

あさひだ

あいうえお

あ



いいこと

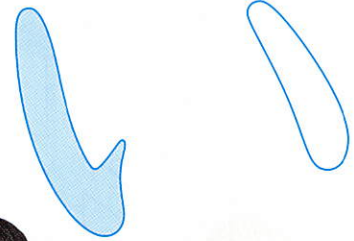
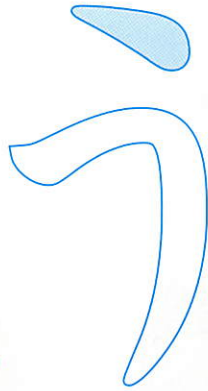
いろいろ

あいうえお

うたごえ

うきうき

あいうえお



えがおで

えんそく

あいうえお

おいしい

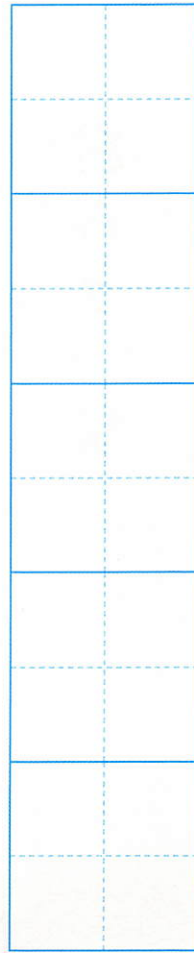
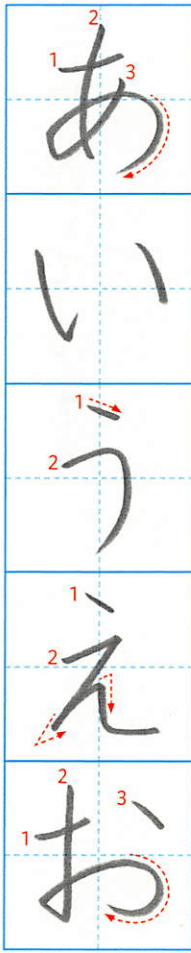
おむすび

あいうえお

お

え







つづけよう①

こえに だして よんだり、ともだちの はなしを きいたり、
ことばで あそんだり しましょう。

こえに だして よもう

あさの おひさま

あさの おひさま

おおきいな

のっこり うみから



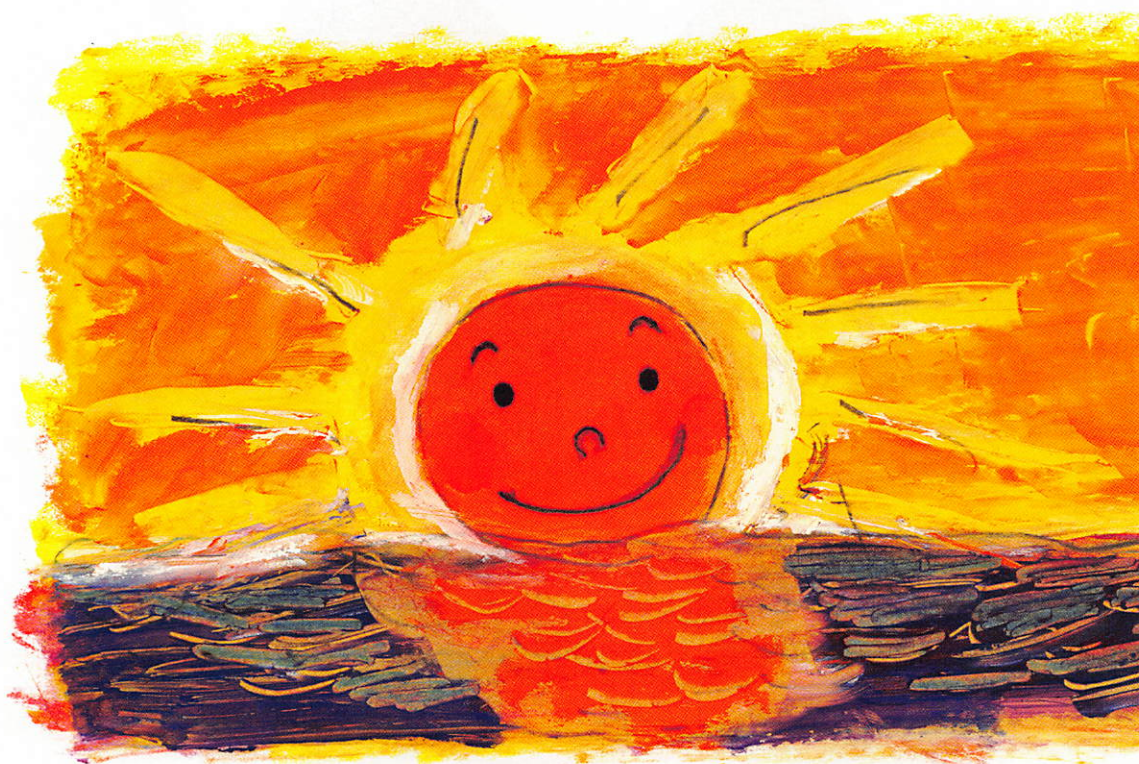
おきだした

あさの おひさま

あかい かお

ざぶんと うみで

あらったよ



ききたいな、ともだちのはなし

すきな あそびを きいて みましょう。

ぼくは、おにごっこが
すきだよ。

わたしも
すきだよ。



みんなに しらせましょう。



むらたさんが すきな
あそびは、おにごっこです。
こんど、いっしょに
おにごっこを したいと
おもいます。



あ

たのしいな、
ことばあそび



あ
い
さ
つ



あ
し
か



あ
り

あ
い
さ
つ

あ
し
か

あ
り



はなの みち

くまさんが、

ふくろを みつけました。

「おや、なにかな。

いっばい

はいつて
いる。」





くまさんが、

ともだちの

りすさんに、

ききに いきました。





くまさんが、

ふくろを あけました。

なにも ありません。

「しまった。

あなが あいて いた」。



あたたかい かぜが

ふきはじめました。

ながい ながい、

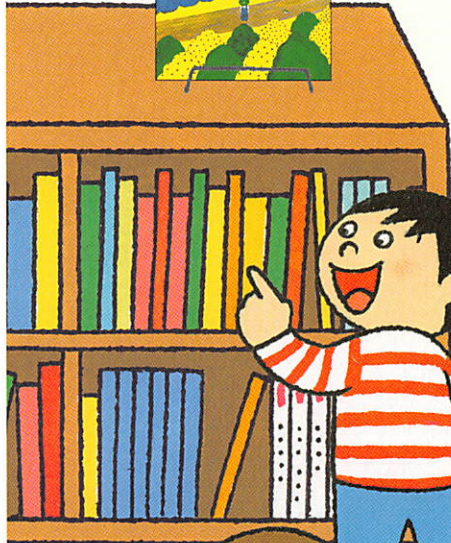
はなの

いっぽんみちが

できました。







ここに えほんが
あるよ。



たくさん
あるね。

としよかんは、ほんを たのしむ
ことができる ところです。

としよかんへ いこう





えほん

もとの
たなに
もどそう。

みんなの
ほんです。
ていねいに
めくりましょう。



かきと かぎ

さるの だいじな

かぎの たば

げんかん うらぐち

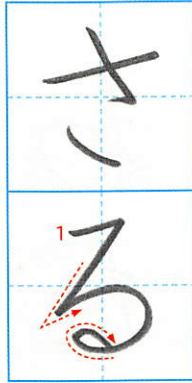
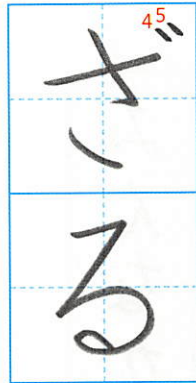
まど とだな

どれが どれだか

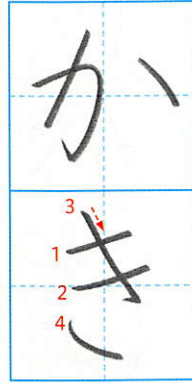
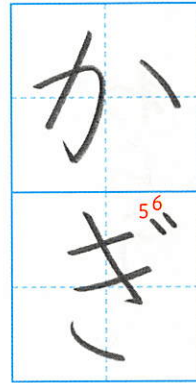
わからない



ざる



さる



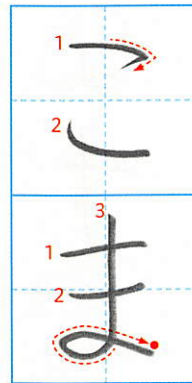
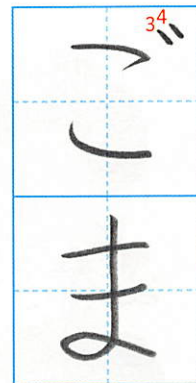
かき



かぎ



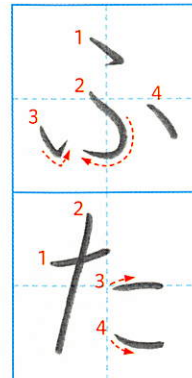
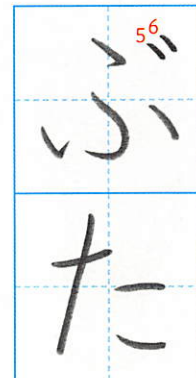
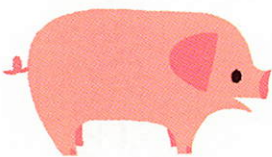
ごま



こま



ぶた



ふた



ぶんを つくろう

わたしが

みんなが

はなす

わらう

。

。

わ
た
し
が
は
な
す

み
ん
な
が
わ
ら
う

ぶんの おわりには、まる（○）を つけます。



▼
ぶんを
つくりましょう。
おわりに、
まるを
つけましょう。



ねこと ねっこ

ねこが いっぴき、
はらっぱ はしる。
ねっこ とびこえ、
ばったと かけっこ。



ば
 っ
 た
 は
 、
 む
 し
 っ
 だ
 す
 。

ばったは、むしです。

き
 っ
 て

き
 つ
 ね

ね
 っ
 こ

ね
 こ

き
 っ
 て



し
 っ
 ぽ

て
 っ
 ぺ
 ん

い
 っ
 び
 き

は
 ら
 っ
 ぱ

ほ
 ほ
 ほ

へ
 へ
 へ

ひ
 ひ
 ひ

は
 は
 は

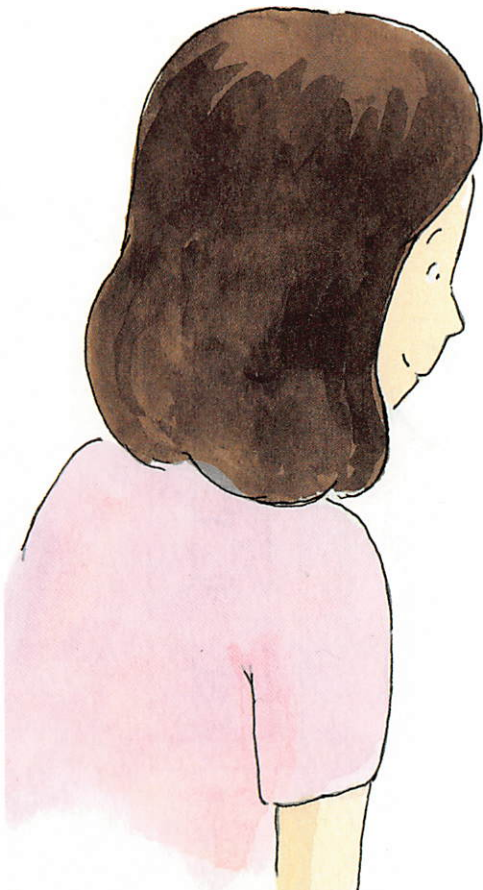
わけを はなそう

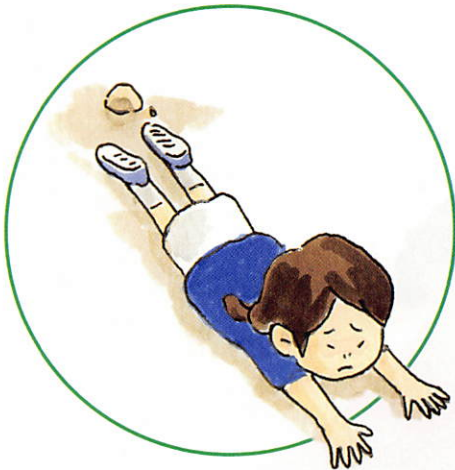
わたしは、

です。

どうしてかと いうと、

からです。





おばさんと おばあさん

まほうの ほうきで
そら とぶ おばさん。
げんきに たいそう
おばあさん。



ゆうやけ

すうじ

おじいさん

おにいさん

おばあさん

おかあさん



5



い
も
う
と
を
よ
ぶ
。

いもうとをよぶ。

ろうそく

おとうと

いもうと

おとうさん

おねえさん



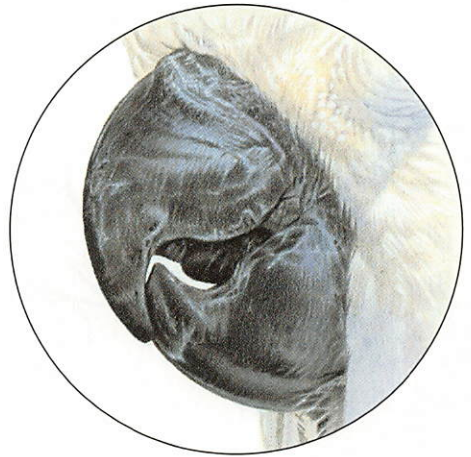
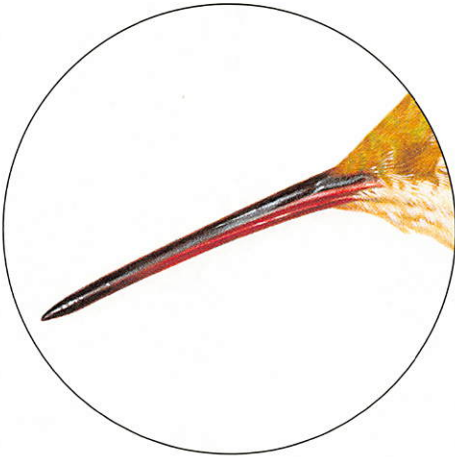
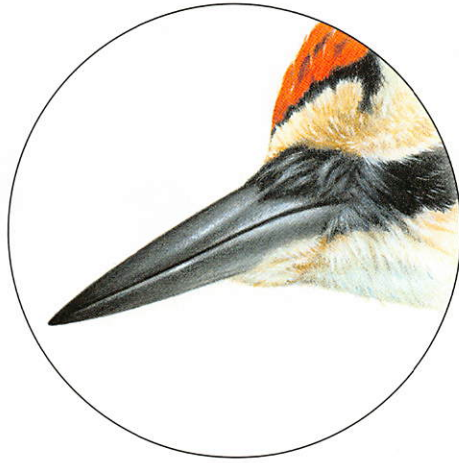
ろ
う
そ
く

ゆ
う
や
け

お
に
い
さ
ん

くちばし

いろいろな 鳥の
くちばしの かたちを
みて みましょう。



さきが

するどく とがった

くちばしです。

これは、なんの

くちばしでしょう。





これは、きつつきの
くちばしです。

きつつきは、

とがった くちばしで、

きに あなを あけます。

そして、きの なかに

いる むしを たべます。

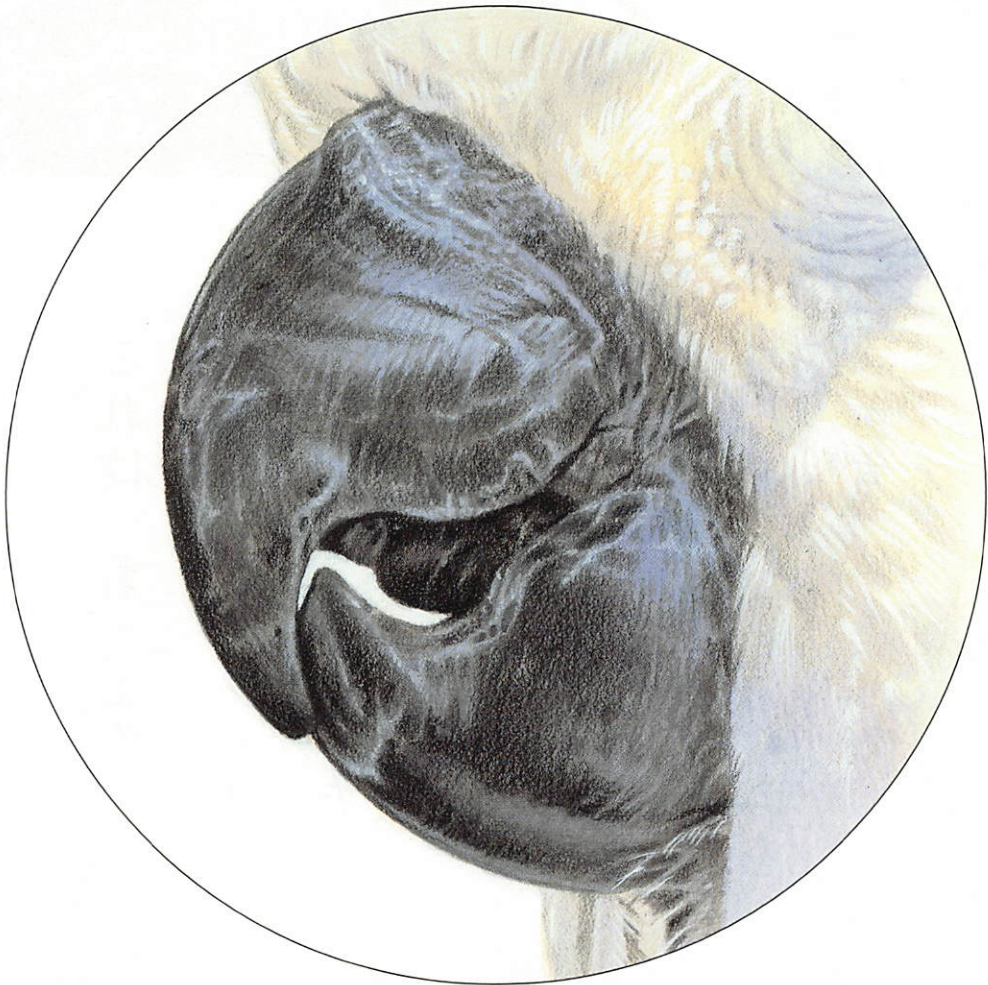
ふとくて、

さきが まがった

くちばしです。

これは、なんの

くちばしでしょう。





これは、おうむの
くちばしです。

おうむは、まがった

くちばしの さきで、

かたい たねの

からを わります。

そして、なかの みを

たべます。

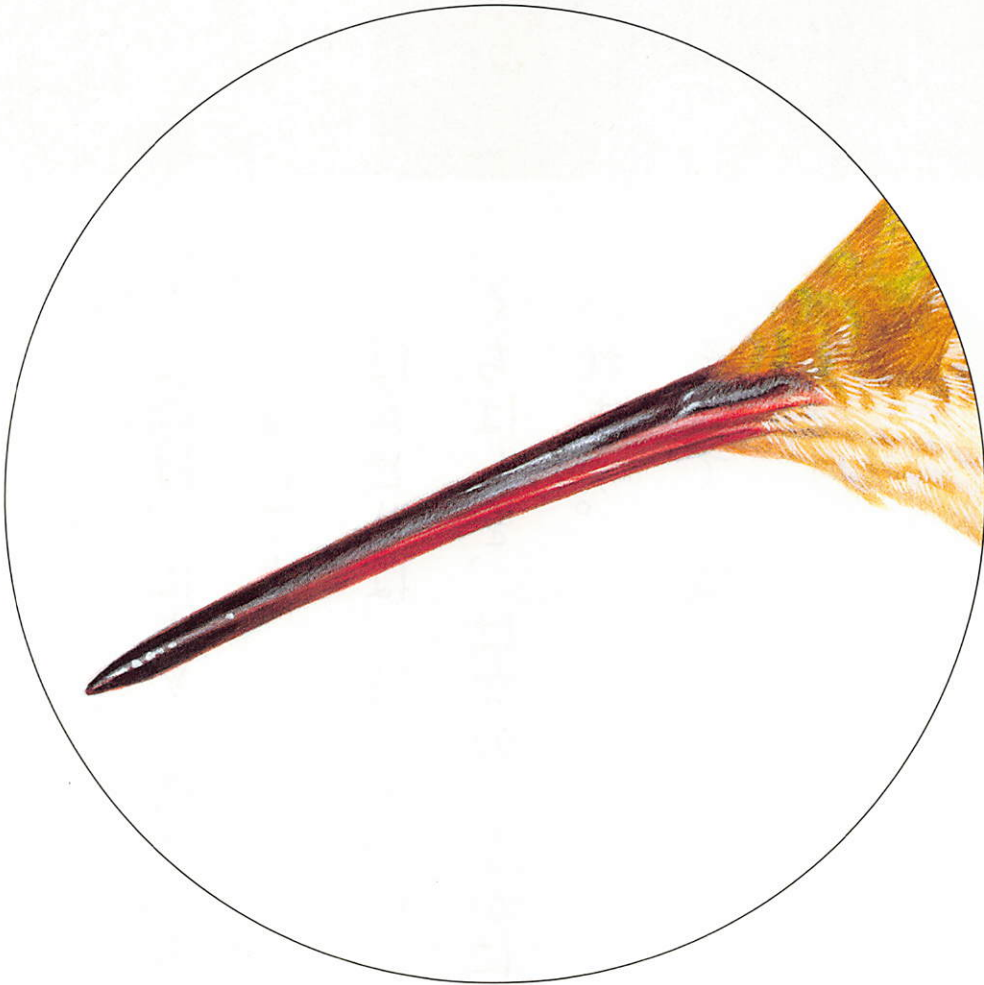
ほそくて、

ながくのびた

くちばしです。

これは、なんの

くちばしでしょう。





これは、はちどりの
くちばしです。

はちどりは、ほそながい
くちばしを、はなの
なかに
いれます。

そして、はなの
みつを
すいます。

▼
こえに だして よみあいましょう。

さきが するどく とがった
くちばしです。

これは、なんの くちばしでしょう。

これは、きつつきの
くちばしです。

▼
いちばん おどろいた くちばしは、どれですか。

わけと いっしょに はなしましょう。



おもちゃとおもちや

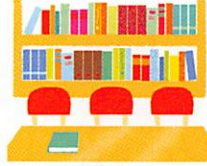
おきやくが ぎょうれつ
しょうてんがい。
おもちの ならぶ
おもちやさん。
おもちやが いっぱい
おもちやさん。



おもちゃ
 じゃ
 や
 へ
 いく。

おもちゃやへ
 いく。

としよかん



あくしゅ



じてんしゃ



しよ

しゅ

しゃ

しよつき

ぎゅうにゅう

じゃんけん



あいうえおで あそぼう

あさがお
えにつき
あいうえお

あやとり

いすとり

あいうえお

かきのみ

くわのみ

かきくけこ

さんかく

しかく

さしすせそ

たこいと

つりいと

たちつてと

なのはな

ののはな

なにぬねの



はるの ひ ふゆの ひ はひふへほ

まつむし みのむし まみむめも

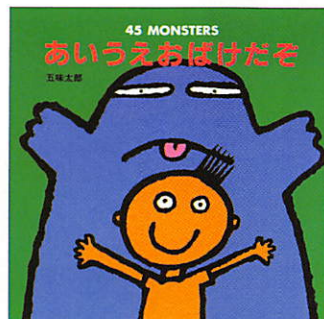
やかん ようかん やいゆえよ

らんらん るんるん らりるれろ

わくわく わいわい わいうえを

ん

たいこを
たたこう
たちつてと



このほん、よもう

な	た	さ	か	あ
に	ち	し	き	い
ぬ	つ	す	く	う
ね	て	せ	け	え
の	と	そ	こ	お



せんべい ←

み
せ

← かみ ←

め
だ
か

▼ しりとりを しましう。

▼ たてや よこに よみま
しう。



せんべい
(おねえさん)



ん	わ	ら	や	ま	は
(い)	り	(い)	み	ひ	
(う)	る	ゆ	む	ふ	
(え)	れ	(え)	め	へ	
を	ろ	よ	も	ほ	

す
み
れ

← りす ← のり ←

ぬ
の

い
ぬ





おおきく なった

はっぱが、おおきく
 なったよ。わたしの
 てと おなじくらい。

ちにつが6



はっぱがおおきく
 になった

- いろ
- たかさ
- におい
- かたち
- ふとさ
- さわった
- かんじ
- おおきさ
- かず
- おもさ

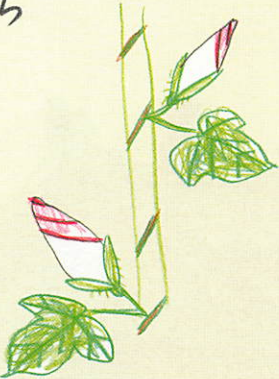
とみたりか

はっぱの

おおきさは、
 わたしのてと
 おなじくらいです。
 さわると、ちく
 ちくします。

つぼみが
できた。
ふたつも
あるよ。



<p>6がつ29にち</p> 	<p>つぼみができた</p>
<p>あかい。 さきがすこし</p>	<p>いろいろ とがっている。 かたち ふたつ。 かず</p>
<p>きくちたくや</p>	

おおきく
(おとうさん)

おおきな かぶ

おじいさんが、かぶの

たねを まきました。

「あまい あまい かぶに

なれ。 おおきな おおきな

かぶに なれ。」



あまい あまい、

おおきな おおきな

かぶに なりました。

おじいさんは、かぶを

ぬこうと しました。

「うんとこしよ、

どっこいしょ。」

けれども、かぶは ぬけません。



おじいさんは、おばあさんを よんで きました。

かぶを

おじいさんが ひっぱって、

おじいさんを

おばあさんが ひっぱって、

「うんとこしょ、どっこいしょ。」

それでも、かぶは ぬけません。

おばあさんは、まごを

よんで きました。



かぶを

おじいさんが ひっぱって、

おじいさんを

おばあさんが ひっぱって、

おばあさんを

まごが ひっぱって、

「うんとこしよ、

どっこいしよ。」

やっぱり、かぶは

ぬけません。



まごは、いぬを よんで きました。

かぶを

おじいさんが ひっぱって、

おじいさんを

おばあさんが ひっぱって、

おばあさんを

まごが ひっぱって、

まごを

いぬが ひっぱって、



「うんとこしよ、どっこいしよ。」

まだまだ、かぶは ぬけません。

いぬは、ねこを よんで きました。

かぶを

おじいさんが ひっぱって、

おじいさんを

おばあさんが ひっぱって、

おばあさんを

まごが ひっぱって、



まごを

いぬが ひっぱって、

いぬを

ねこが ひっぱって、

「うんとこしよ、どっこいしよ。」

なかなか、かぶは ぬけません。

ねこは、ねずみを よんで きました。

かぶを

おじいさんが ひっぱって、



おじいさんを

おばあさんが ひっぱって、

おばあさんを

まごが ひっぱって、

まごを

いぬが ひっぱって、

いぬを

ねこが ひっぱって、

ねこを

ねずみが ひっぱって、



「うんとこしょ、

どっこいしょ。」

とうとう、

かぶは ぬけました。





ロシアの
みんな

▼おはなしを、みんなで たのしみましょう。

■やくを きめて よもう

おじいさんが、かぶの
たねを まきました。

あまい あまい
かぶに なれ。



うごきながら こえに
だそう

うんとこしょ、
どっこいしょ。



この
ほん、
よもう

は
を
へ
を
つかおう

かわに、わにが すんで いた。

わには、かわから かおを だし、

どこへ いこうか、かんがえた。

わには、きしべに ねころぶと、

なにを しようか、かんがえた。



は、

を

。

は、

へ

。

▼
ぶんをつくりましょう。



か
お
を

あらう。

わ
に
は

あらう。



い
え
へ

かえる。

わ
に
は

かえる。

すきな もの、なあに

すきな ものの ことを、

ふたりで はなしましょう。

ぼくは、おりがみが
すきだよ。いつも おりがみで
あそんで いるよ。

どうして
すきななの。



すきな ものと その わけを、

ともだちに しらせましょう。

ぼくの すきな ものは、
おりがみです。
どうしてかと いうと、
いろいろな ものが、
つくれるからです。



か	ろ	お		
ら	な	り	ぼ	
で	も	が	く	き
す	の	み	の	く
	が	で	す	ち
		す	き	
	つ		な	た
	く	い	も	く
	れ	ろ	の	や
	る	い	は	

ともだちに はなした ことを、
かきましよう。



かいた ものを あつめて、

よみあいましょう。

わたしも、おりがみが
すきだよ。

そうなんだ。こんど、
いっしょに おりがみを
おろう。



おむすび ころりん

むかし むかしの はなしだよ。

やまの はたけを たがやして、

おなかが すいた おじいさん。

そろそろ おむすび たべようか。

つつみを ひろげた その とたん、

おむすび ひとつ ころがって、

ころころ ころりん かけだした。



まて まて まてと おじいさん、
おいかけて いったら おおすびは、
はたけの すみの あなの なか、
すつとんとんと とびこんだ。



のぞいて みたが まっくらで、
みみを あてたら きこえたよ。

おむすび ころりん すっとんとん。
ころころ ころりん すっとんとん。

これは これは おもしろい。

ふたつめ ころんと ころがすと、

きこえる きこえる おなじ うた。

おむすび ころりん すっとんとん。
ころころ ころりん すっとんとん。



おなかが すいてる ことなんか、
わすれて しまった おじいさん。

うたに あわせて おどりだす。

おむすび ころりん すっとなんとなん。

ころころ ころりん すっとなんとなん。



とうとう あしを すべらせて、
じぶんも あなへ すっとなん、
ねずみの おうちに とびこんだ。
おじいさん ころりん すっとなん。
おむすび たくさん ありがとう。



おいしい ごちそう さあ どうぞ。

ねずみの おどりを みて ください。

おれいに こづちを あげましょう。



おれいの こづちを てに もって、
おうちに かえって おばあさんと、
おどった おどった すっとなん。
こづちを ふり ふり すっとなん。

すると どう した ことだろう。

こづちを ふる たび、あれ あれ あれ、

しろい おこめが ざあらざら。

きんの こばんが ざっくざく。



それから ふたりは いつまでも、
なかよく たのしく くらしたよ。

おむすび ころりん すっとなん。
ころころ ころりん すっとなん。



としよかんと なかよし



としよかんで、よみたい
ほんを
みつけましょう。

だいめいが
おもしろいね。

どんな
おはなしかな。

かぶとむしの
ほんは ありますか。





ひょうしをみてみましょう。



だいまい

ひょうし

しちがつ みつか	しちがつ みつか	よんだ ひ
しちがつ ななか	まゆとうりんこ	だいまい
てぶくろ		おもしろかった しるし
○	◎	

ほんを よんだり、
よんで もらったり したら、
だいまいや ひづけを
かいて おきましょう。

こんなことがあったよ



はなびたいかい

おおた ゆい

わたしは、どうぶに、

おじいちゃんとはなびを

みました。そらに、おおきな

はながさいたみたいでした。

とてもきれいでした。



● した こと

● みた こと、

● みつけた もの

● きいた こと

● おもった こと

わたしも かぶとおしを
つかまえたいな。

ぼくが みた はなびも、
きれいだったよ。





つづけよう②

こえに だして よんだり、ともだちのはなしを きいたり、
ことばで あそんだり しましょう。

こえに だして よもう

いちねんせいの うた

あおい そらの こくばんに

なに かこう

うでを のばし

ちからを こめて



このほん、よもう



まっすぐ

いちねんせいの
一^{いち}

ぼくも かく

わたしも かく

いちねんせいの 一

いちばん はじめの 一

おひさま みる

かぜが ふく



ききたいな、ともだちのはなし

ともだちは、なつやすみに、

なにを したのでしょいか。

ようすを おもいかべながら

ききましよう。

ぼくは、まいにち、あさがおの
みずやりを しました。なつやすみの
はじめに、きれいな はなが さきました。



はなは、
なにいろでしたか。

しりたい ことを きいたり、
かんそうを いったり
しましょう。

あおい
いろでした。



たのしいな、ことばあそび

い	ち	ね	ん	せ	い	さ	や
ぬ	た	こ	お	ん	ぶ	し	か
あ	り	ま	く	ま	な	り	ん
ひ	と	え	き	ご	つ	と	そ
つ	け	も	ぐ	ら	や	り	ら
じ	い	も	だ	は	す	ず	め
え	ほ	ん	い	ち	み	い	だ
ひ	び	し	く	さ	ん	ぽ	か

たて、よこ、ななめに、

たくさんのことばが

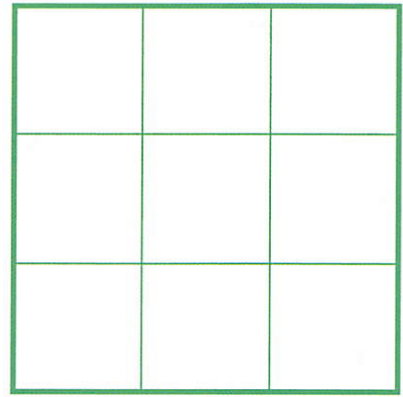
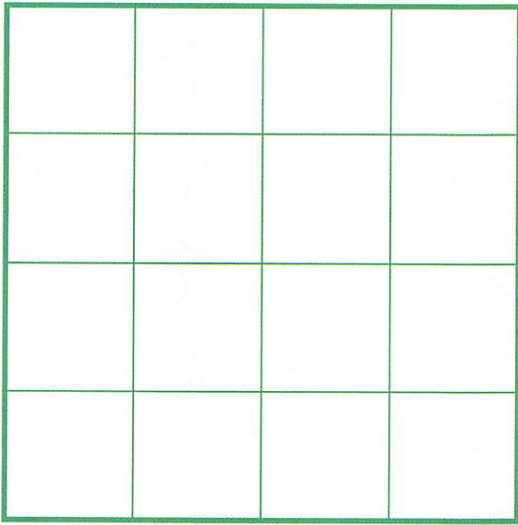
かくれて います。

かくれて いる ことばを

みつけましょう。

みつけた ことばを

ていねいに かきましょう。



じぶんでも つくって
みましよう。
つくったら、ともだちと
とりかえて たのしみましよう。



よむ
おはなしを たのしもう

やくそく

こかぜ さちさく くらい けんえ

ある おおきな 木に、

いっぴきの あおむしが いました。

あおむしは、まいにち

木の はを たべて、

からだか ちように かわる



ひを まって いました。

ある とき、 いつものように

はを たべて いると、 どこからか、

おしやむしや おしやむしやと、

おとが きこえます。

なんと、 じぶんと そっくりな あおむしが、

おなじ 木で、 はを たべて います。

「だめ だめ。 この 木は、 ぼくの 木。

ぼくの はっぱ。」



—
○木き

あおむしが　いうと、

その　あおむしも、　いいました。

「この　木は、わたしの　木。

だから、はっぱも、わたしの　はっぱ。」

にひきが　いいあいを　して　いると、

どこからか、もりもり　もりもりと、

おとが　きこえます。

なんと、じぶんたちと　そっくりな　あおむしが、

おなじ　木で、はを　たべて　います。



「その はっぱは、ぼくのだぞ。」

と、いっぴきめが いました。

「わたしの はっぱを たべないで。」

と、にひきめも いました。すると、

「そんな こと しる ものか。」

さんびきめが いいかえしました。

あおむしたちは おおげんか。

その ときです。

「うるさいぞ。」

おおきな 木が、ぐらりと ゆれて いました。



「みんな、もっと　うえまで　のぼって、
そとの　せかいを　みて　ごらん。」

あおむしたちは、いわれた　とおりに、
のぼって　いきました。

いちばん　たかい　えだに　つくと、
さんびきは　めを　まるく　しました。

この　おおきな　木は、はやしの　なかの
たった　いっぽんだったのです。

「ぼくら、こんなに　ひろい　ところに
いたんだね。」



「それも、こんなにひろいんだね。」

とおくには、うみがみえます。

あおむしたちは、まだうみをしりません。

「あのひかっている

ところは、なんだろう。」

さんびきは、えだにならぶと

せのびをしました。

「きれいだね。」

からだがちょうにかわったら、



あそこまで とんで みたいな。」

「わたしも、あそこまで

とんで みたい。」

「それなら、みんなで いこう。」

さんびきの あおむしは、

やくそくを しました。

そして、くんねり くんねり

おりて いました。

木の はが、

さらさら そよいで います。





がくしゅう

おはなしを たのしもう

▼この おはなしには、だれが でて
きましたか。

▼あおむしや 木に なった つもりで、
おはなしを こえに だして よみましょう。



おはなしを よむ ときは、
だれが なにを いったり したり
したかに、きを つけましょう。



「やくそく」は、この おはなしの
だいめいです。

おはなしを つくった ひとを、その
おはなしの さくしゃと いいます。

木
木
木
木
木

ことば

かたかなを みつけよう

コップに ギゆうにゆう

おさらに サラダ

パンには ジャムを

つけましょう

スープは スプーンで

のみましょう

ゼリーは しょくごの

おたのしみ



ちいさく かく かたかな

コップ (はらっぱ)

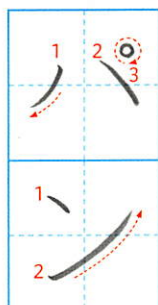
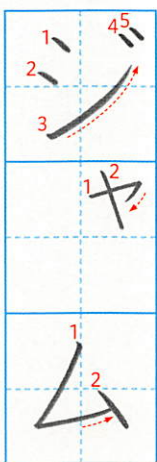
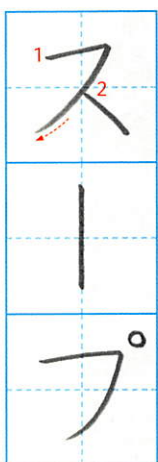
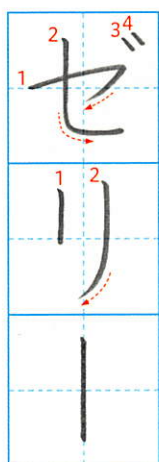
ジャム (じゃんけん)

のばす おん

スープ (すうじ)

▼かたかなのことばを

みつけましょう。



- ▲ゼ
- ▲ス
- ▲ジ
- ▲パ
- ▲サ
- ▲コ
- ▲リ
- ▲ー
- ▲プ
- ▲ム
- ▲ン
- ▲ラ
- ▲ツ
- ▲
- ▲ダ
- ▲
- ▲
- ▲



よむ

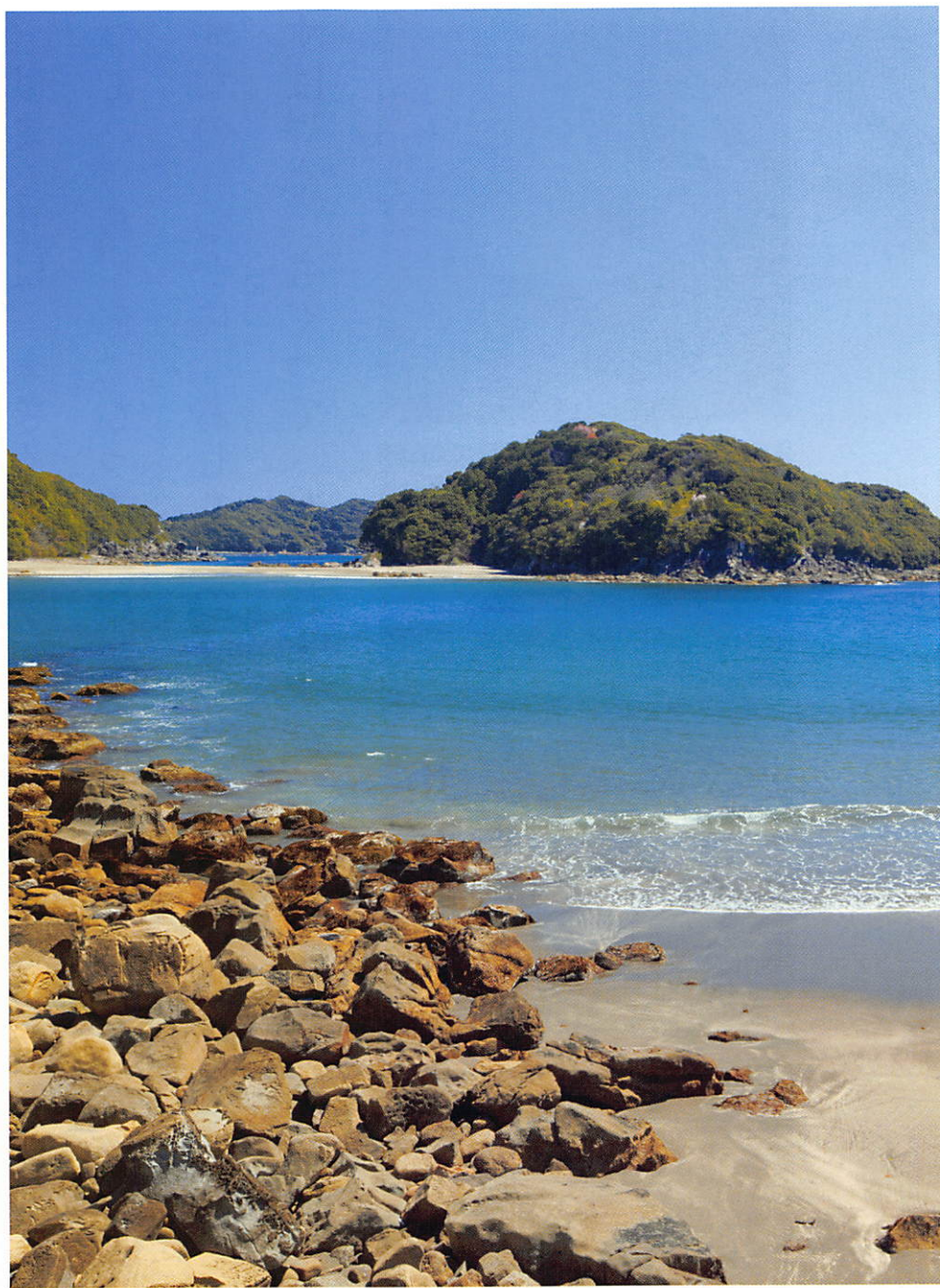
よんで

たしかめよう

うみの かくれんぼ



うみには、いきものがかくれて います。
なが、どのようにかくれて いるのでしょうか。



はまぐりが、すなの なかに

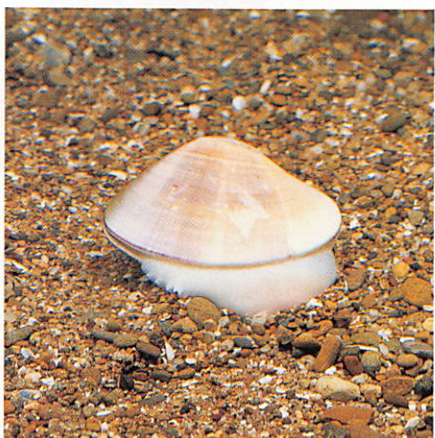
かくれて います。

はまぐりは、大きくて

つよい あしを もって います。

すなの なかに あしを のばして、

すばやく もぐって かくれます。



。大きい
おお

たこが、うみの　そこに

かくれて　います。

たこは、からだの　いろを

かえる　ことが　できます。

まわりと　おなじ　いろに　なって、

じぶんの　からだを　かくします。



かにの なかまの もくずしよいが、

いわの ちかくに かくれて います。

もくずしよいは、はさみで、かいそうなどを

小さく きる ことが できます。

かいそうなどを からだに つけて、

かいそうに へんしんするのです。



。小さい



よみましょう。

だいじな ことばを たしかめながら

小 小 小 小 小
大 大 大 大 大
小さい 大きい



よんで たしかめよう



このほん、よもう

- ▼ はじめて した ことは、なんですか。
- ▼ うみの いきものは、どんな かくれんぼを して いましたか。ともだちと はなしましょう。
- なにが、どこに かくれて いましたか。
- どのように かくれて いましたか。

ことば

かずと かんじ

一 (いち)

ひとつ

一つ

たたくと、

こぶたが

一ぴき。

二 に

ふたつ

二つ

たたくと、

こぶたが

二ぴき。

三 さん

みっつ

三つ

たたくと、

こぶたが

三ぴき。

四 よし

よっつ

四つ

たたくと、

こぶたが

四ぴき。

五 ご

いっつ

五つ

たたくと、

こぶたが

五ぴき。



十	九	八	七	六
(じゅっ)	く きゅう	(はっ)	な しち	(ろく)
じゅっ	じゅう	はち	なな	ろく

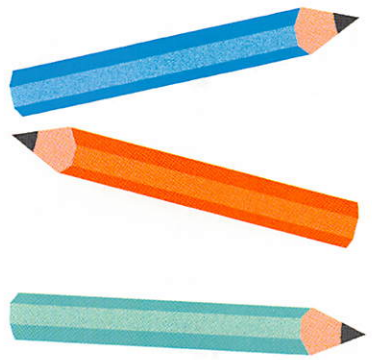
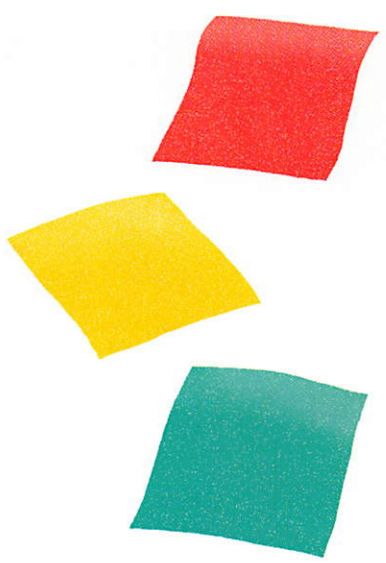
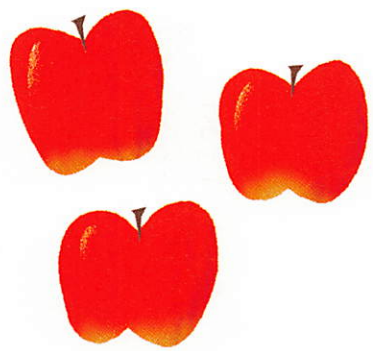
とお	このつ	やっつ	ななつ	むっつ
----	-----	-----	-----	-----

十	九つ	八つ	七つ	六つ	どんどん
たたくと、	たたくと、	たたくと、	たたくと、	たたくと、	どんどん、
こぶたが	こぶたが	こぶたが	こぶたが	こぶたが	ふえて
十	九	八	七	六	くる。
びき。	びき。	びき。	びき。	びき。	

のはらは、こぶたで いっぱいだ。



▼おなじように、十までかぞえましょう。



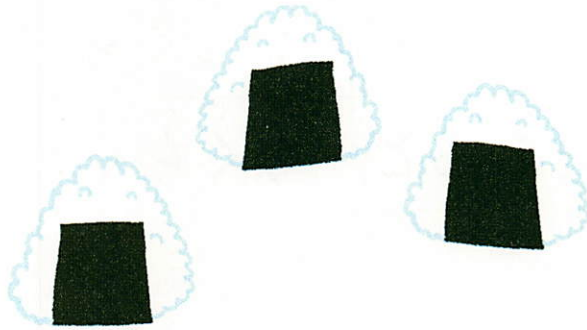
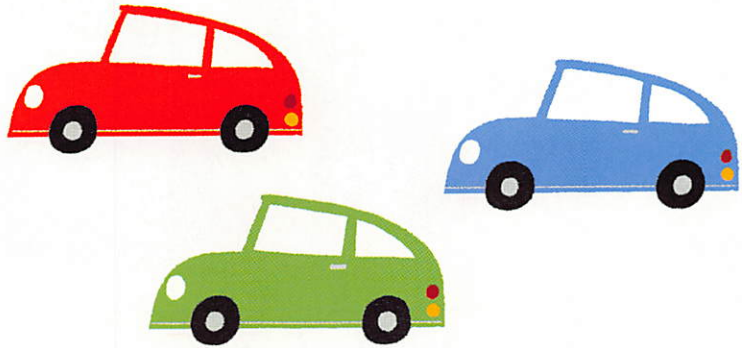
一つ たたくと、
おりがみ 一まい。

二つ たたくと、
おりがみ 二まい。





じどうしやは、
 なんてかぞえるのかな。



十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
				六	五	四	三	二	
				六	五	四	三		
				六	五	四			
				六	五	四			

よじがきの
かきかた

はっぱがおおきくなった

6がつ11にち とみた りか



はっぱのおおきさは、わた
しのでとおなじくらいです。
さわると、ちくちくします。

^{ちい}小さい じゃ、「(、)」や「。」は、
まんなかよりも したに かきます。

さわると、ちくちくします。

このほんでならうかんじ

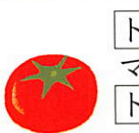
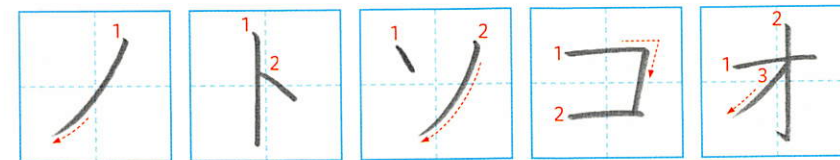
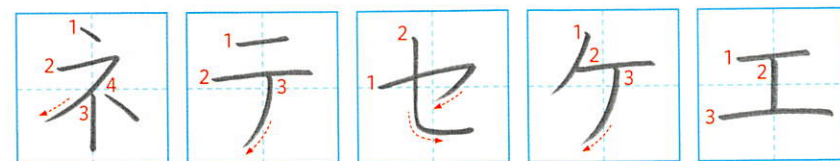
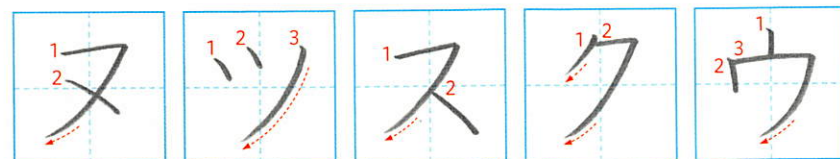
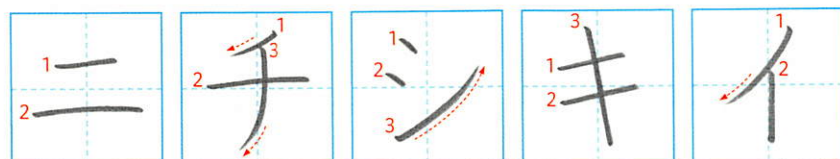
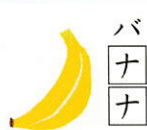
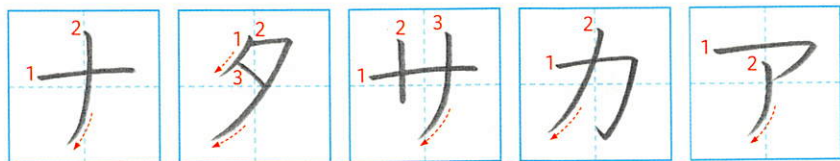
118 小 3かく ちいさい 小さく きる	116 大 3かく おおいに おおきい こえが 大きい	104 木 4かく き おおきな 木	104 木 4かく き よみかた —つかいかた おおきな 木
---	--	--	--

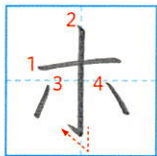
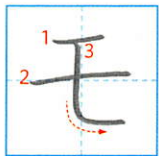
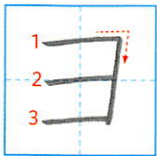
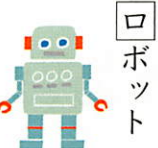
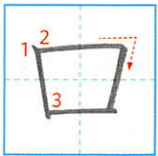
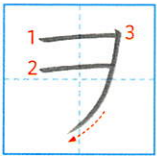
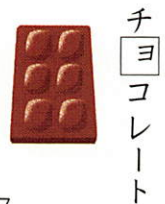
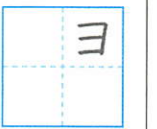
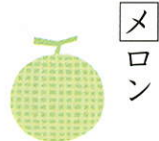
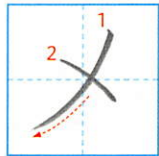
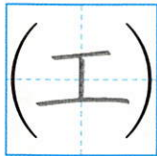
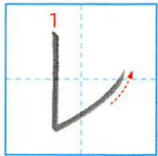
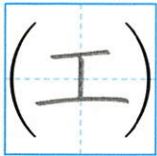
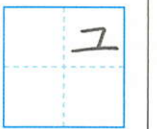
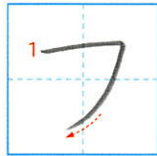
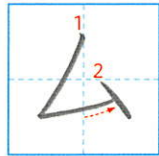
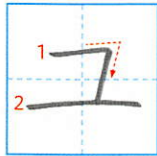
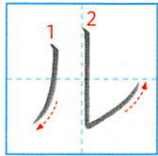
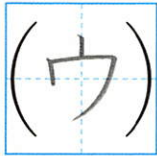
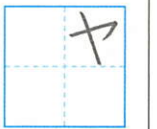
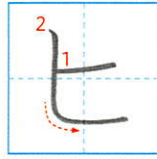
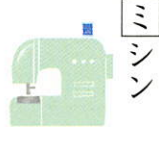
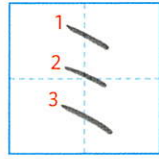
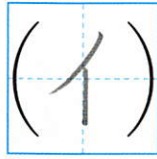
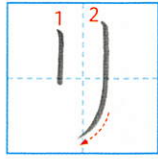
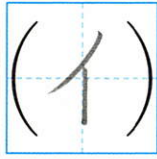
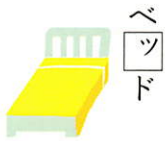
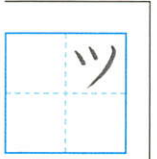
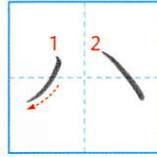
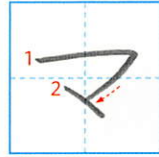
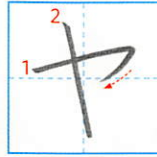
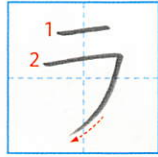
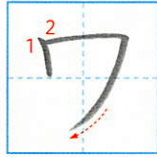
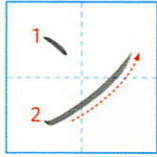
120 四 5かく よん よつ よ よっ し よっつ	120 三 3かく みつ み み みつ さん みつ	120 二 2かく ふた ふたつ に ふたつ	120 一 1かく ひと ひとつ いち いつ	かずと かんじ
四ひき 四つ	三ひき 三つ	二ひき 二つ	一ひき 一つ	

121 九 2かく このの こののつ く きゅう 九 九つ 九ひき	121 八 2かく やつ や や やつ (はち) はち 八 八ひき 八まい	121 七 2かく ななつ なな しち 七 七ひき 七にん	121 六 4かく むつ む む むつ ろく ろく 六 六ひき 六まい	120 五 4かく いつ いつ ご 五 五ひき
---	---	--	---	---

121 十 2かく とお じゅう じつ(じゆ)十 十 十まい
--

かたかな







もくじ

いい てんき	9	くちばし むらた こういち	52
さあ はじめよう	10	おもちゃやと おもちゃ	60
おはなし たのしいな	12	あいうえおで あそぼう	62
あつまって はなそう	14	ながかわ ひろたか	66
えんぴつと なかよし	16	おおきく なった	68
どうぞ よろしく	18	おおきな かぶ さいこう たけひこ	66
なんて いおうかな	20	おおきな つかおう	80
こんな もの みつけたよ	22	は を へ を	82
うたに あわせて あいうえお	26	すきな もの、なあに	86
つづけよう①	28	おむすび ころりん はそべ だし	94
こえに だして よもう	30	としよかんと なかよし	96
あさの おひさま かんざわ としこ	32	ことば	98
ききたいな、ともだちの はなし	34	こえに だして よもう	102
たのしいな、ことばあそび	36	いちねんせい の うた	104
はなの みち おかのぶこ	38	なががわりえこ	106
としよかんへ いこう	40	ききたいな、ともだちの はなし	108
かきと かぎ	42	たのしいな、ことばあそび	110
ぶんを つくろう	44	おはなしを たのしもう	112
ねこと ねっこ	46	やくそく こかせ さち	114
わけを はなそう	48	かたかなを みつけよう	116
おばさんと おばあさん	50	よんで たしかめよう	118
		うみの かくれんぼ	120
		かずと かんじ	122
			124
			125
			126
			129

ひろく

よこがきの かきかた

この ほんて

ならう かんじ

かたかな

ひらがな

この ほんて つかつて

いる しるし

この ほんて つかつて

よく つかわれる

ことばです。

かんじや かたかなに

ついて いる しるし

○ あたらしい かんじ。

▲ あたらしい かたかな。

この しるしが

ある ところには、

なる しりょうが あります。

よみとる ときには、かならず、

せんせいや おうちの かたと

いっしょに おこないましょう。



この しるしが
ある ところには、
なる しりょうが あります。

ひらがな

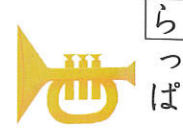
ん



わ



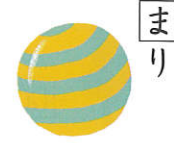
ら



や



ま



は



な



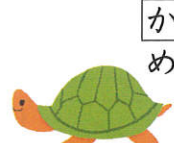
た



さ



か



あ

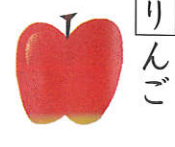


つ



(い)

り



(い)

み



ひ



に



ち



し



き



い



や

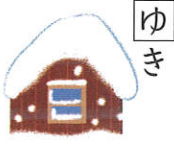


(う)

る



ゆ



む



ふ



ぬ



つ



す



く



う



ゆ



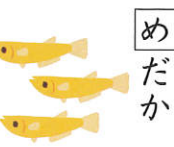
(え)

れ



(え)

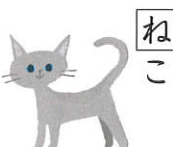
め



へ



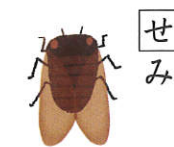
ね



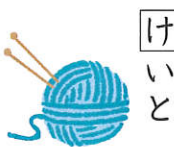
て



せ



け



え



よ



を



ろ



よ



も



ほ



の



と



そ



こ



お



り	み	ひ	に	ち	し	き
や	や	や	や	や	や	や
り	み	ひ	に	ち	し	き
ゆ	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ
り	み	ひ	に	ち	し	き
よ	よ	よ	よ	よ	よ	よ

ぴ	び	ち	じ	ぎ
や	や	や	や	や
ぴ	び	ち	じ	ぎ
ゆ	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ
ぴ	び	ち	じ	ぎ
よ	よ	よ	よ	よ

ば	ば	だ	ざ	が
 かつば	 こくばん	 だいこん	 ざる	 がっこう
ぴ	び	ち	じ	ぎ
 はっぴ	 かびん	 はなぢ	 しやどろ	 うさぎ
ふ	ふ	づ	ず	ぐ
 てんぷら	 ぶどう	 かんづめ	 すず	 どんぐり
ぺ	べ	て	ぜ	げ
 とう	 なべ	 でんわ	 かぜ	 げた
ぽ	ぼ	と	ぞ	ご
 たんぽ	 ぼうし	 まど	 ぞう	 だんご

編集委員

甲斐睦朗 元国立国語研究所所長
高木まさき 横浜国立大学大学院教授

青山由紀 筑波大学附属小学校教諭
赤木雅宣 ノートルダム清心女子大学教授

阿辻哲次 京都大学名誉教授
阿部昇 秋田大学特別教授

池上彰 ジャーナリスト
石井陸美 作家

石黒圭 国立国語研究所教授
稲田八穂 筑紫女学園大学教授

井上一郎 前京都女子大学教授
浮田真弓 岡山大学教授

内田伸子 お茶の水女子大学名誉教授
岡田博元 お茶の水女子大学附属小学校教諭

甲斐雄一郎 筑波大学教授
鹿毛雅治 慶應義塾大学教授

アート・ディレクション／デザイン 図工室（坂 啓典／近田宏生／堀ノ内達也）
表紙絵 大野八生

さし絵 ヴェロローション／うつみのりこ／大庭賢哉／柿本幸造／河原崎秀之／澤野秋文／sogawa. / スギヤマカナヨ／てづかあけみ
内藤貞夫／ハラアツシ／二俣英五郎／保手浜 孝／松成真理子／三木麻都／山本祐司 書き文字 樋口咲子
写真 アフロ／アマナイメジス／内山晟動物写真事務所／すみだ水族館／ゆかい

桂 聖 筑波大学附属小学校教諭
藤森裕治 信州大学学術研究院教授

茅野政徳 山梨大学教職大学院准教授
細川太輔 東京学芸大学教職大学院准教授

工藤直子 作家
三浦登志一 山形大学学術研究院教授

鴻上尚史 作家・演出家
邑上裕子 明星大学客員教授

輿水かおり 前玉川大学客員教授
森 篤嗣 京都外国語大学教授

佐渡島紗織 早稲田大学教授
森山卓郎 早稲田大学教授

達富洋二 佐賀大学教授
吉永幸司 前京都女子大学教授

田中洋一 東京女子体育大学教授
市原恭代 カラーユニバーサルデザインに関する校閲
工學院大学准教授

棚橋尚子 奈良教育大学教授
NPO法人カラーユニバーサル
デザイン機構(CUDO)理事

土山和久 大阪教育大学教授
特別支援教育に関する校閲

永池啓子 横浜国立大学講師
佐島 毅 筑波大学准教授

中川一史 放送大学教授
小貫 悟 明星大学教授

中川李枝子 作家
学習のユニバーサルデザインに関する校閲

中村桂子 生命誌研究館館長
光村図書出版株式会社編集部

こくご 1 上かざぐるま

38 光村 国語107 小学校国語科用

年月 日印刷
年月 日発行

（平成三十一年二月二十五日検定済）

定価 文部科学大臣が認可し官報で告示した定価
（右記の定価は、各教科書取次供給所に表示します。）

この教科書にもどづくワークブック・解説書、ならびに
これに類するものの無断発行を禁じます。

ISBN978-4-638-00694-4

著作者

甲斐睦朗 ほか四十三名別記

発行者

光村図書出版株式会社

代表者 小泉 茂
東京都品川区上大崎二十九九

印刷者

協和オフセット印刷株式会社

代表者 嶋 三津夫
東京都港区浜松町一・三二一

発行者

光村図書出版株式会社

東京都品川区上大崎二十九九
電話（〇三）三四九三二二一一（代表）

ISBN978-4-8138-0064-4
C4381 ¥00000E



9784813800644



192438100000

保護者の皆様へ

この教科書は、これからの社会を生きる子どもたちが、言葉に出会う喜びや、人とつながる楽しさを実感しながら、確かな「言葉の力」を身につけることを願って編集したものです。ご家庭においても、この教科書を子どもたちと語り合うきっかけとしてご活用ください。

この教科書は、次のような配慮や工夫をしています。

- カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています。
- 児童の学習負担を軽減するよう、本文には書き文字と差異の生じない書体を使用しています。
- 単元名や見出しには、見やすいユニバーサルデザイン書体を使用しています。
- 環境に配慮した紙、植物油インキを使用しています。

UD
FONT



この教科書では、学習の参考となる動画などの資料を小社ウェブサイトを用意し、その箇所には二次元コードを示しています。機種やインターネット環境等によってはアクセスできないことがあります。また、通信料が発生する場合があります。読み取れない場合は、下記のURLをご参照ください。



<https://m-manabi.jp/20/qr/k1j/>

この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。



光村図書

一
ね
ん

く
み

